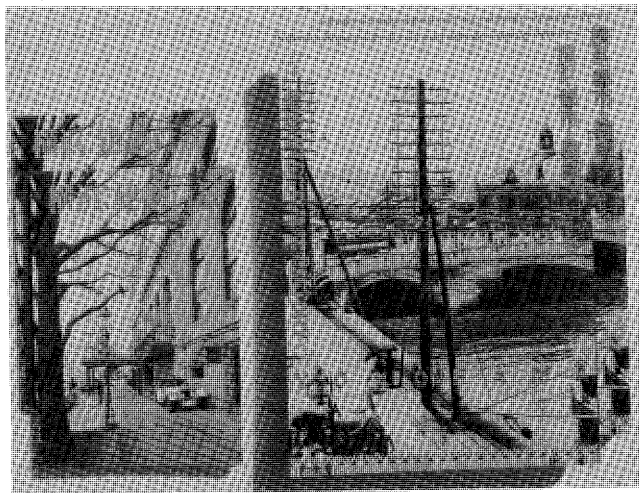


## 新書紹介

## 横浜・都市と建築の一〇〇年

横浜市建築局企画管理課

横浜市 A4判 二〇二頁 一、五〇〇円



「横浜は一八五九年の開港に

よって、一挙につくりあげられ

た都市である。外国への窓として急激に建設されたことは、ロシアのペテルブルク（今のレニングラード）を連想させる。ともに人工的で実験的な都市だったから、その強引な変化に伴う悲劇も避けることはできなかった。横浜という都市の魅力

はそのようなところからきているのだろう。この街はいつも、西洋と日本のはざまにあった。

西洋文物はここに第一歩を記した。横浜には、洋風なもの、モダンなものがまずあらわれた。

横浜は海に向かって、異文化に向かつて開かれていく。開放性、境界性がこの街の特徴だった。」

巻頭エッセイ「横浜のモダン都市を歩く」で海野弘氏は、横浜

の街の特徴をこのように述べている。これまで、横浜の街の特

徴はさまざまに断片的に語られてきたが、大系的にとらえられ

た事はあまりなかった。そこで、建築局では、市政一〇〇周年・

開港一三〇周年を機会に、横浜の街とそれを形作っている建築

の歴史を、次世代の横浜市民に語り継ぎ、21世紀を迎える明日

の横浜を展望するために、「横浜・都市と建築の一〇〇年」をまとめた。

本書と同時に発刊した「横浜建築百景」とは、市政一〇〇

周年・開港一三〇周年記念出版の一つとして出版したが、単なる記念出版ではなく、街を歩きながら建築が織りなす街の歴史

を楽しめるガイドブックとして出版した。

\*

本書は、三部で構成されており、第一部は、「横浜近代建築史」として、横浜の近代建築を日本の近代建築史の歩みの中で位置づけるとともに、開港間もない横浜居留地で活躍した外人建築家、いわゆる居留地建築家や、東京駅などの建築で知られ、横浜にも足跡を残した辰野金吾ら日本近代建築史を代表する建築家などの業績を取り上げた。「ジャック」の塔の愛称で親しまれている開港記念会館、「キング」の神奈川県庁、「クイーン」の横浜税関など、近代の名建築もジャンル別に紹介している。

第二部「人と建築の風景」では、四人の写真家が建築と人びとの暮らしの表情を追ったグラフィック「ヨコハマ・グラフィティ」を添え、落語家の桂歌丸さんや歌手の渡辺はま子さんから横浜ゆかりの人たちに、山手の町並み、下町の暮らし、劇場のある風景などをエッセイ風につづらべている。第三部は「ヨコハマの都市像をさぐる」と題し、建築史家や国文学者らによる市長を囲む座談会で、横浜の街の未来をさぐっている。

\*

\*

同時出版の「横浜・建築百景」は、イラストマップとカラー写真で構成。これまでありがちな、開港以来の面影を残す歴史的な建築を並べるだけでなく、なるべく知られていない郊外の新風景も数多く紹介しているのが特徴で、市内十六区の代表的な「建築のある風景」をウォーク・フロント・ルート、ヨコハマベイ・ルートなど各地域・鉄道沿線別に紹介し、むだなく景観を楽しめながら街を散策できるように編集している。

\* \* \*

本書を通じて、横浜の街の再発見と新たな体験が生まれ、横浜の街に刻まれた歴史を読み取り、将来に向けて横浜の街の特徴が生かされることを願っている。

〈建築局 大宮眞一〉